

V o 1.2 「心から安全と楽しさを願う人々の思いと行動が可能にしたこと」

1月末に、柳原顧問と共に、交通安全教育指導者研修のための東京出張時、人々に交通安全を啓発し、人を育てる新しい動きを2つ、偶然目にし共感しました。

1つ目は、愛知より東名高速、首都高を降り、交通量の多く雑然とした都心部の3車線道路を走行している時のこと。

バックミラーやサイドミラーに映る遠目に見れば白バイ隊のような数台の大型バイクが後方から整然と隊列を組んで、安全なスピードで走ってきました。ちょうど信号で横に並び、白バイ隊のような服装だけれど、そうではないと判りました。クラブのツーリングかな？或いは、模範的な乗車姿勢、安全なスピードの様子から、教習所の路上教習かな？などと思いつつ眺めていると、柳原顧問が「T O K Y Oスマートライダーズのステッカーが全車に貼ってありますね。」と教えてくれました。



上下のステッカーや啓発ロゴ：
出典／TOKYO SMART RIDER

思いやりを増やす。交通事故を減らす。 

なるほど、お洒落できれいなピンクのチェッカーフラッグが貼ってあります。その姿は、毅然としており、素敵だなと感じました。もしかすると、オートバイの模範走行を示す交通安全活動・・・？と予想。インターネットで調べるとなるほど予想通り、首都高等での二輪車交通事故を減らす模範走行啓発活動であることが判りました。

「思いやりの力を集めて！」が、スローガンのようです。

その後、「T O K Y Oスマートドライバー」のステッカーを張ったトラックも発見！車にも同様の活動が展開されているのです。「T O K Y Oスマートドライバー」という自動車安全啓発市民活動団体が母体となり、2008年より、首都高の事故を減らす為に人々に呼びかけ、運転者の思いやりの力で交通コミュニケーションへの意識を高める啓発活動が、2つ誕生していたのです。

下の啓発デザイン：
出典/TOKYO SMART DRIVER



「T O K Y Oスマートドライバー」のHPには、こんな言葉が掲示されています。
「興味を持つ人々が増えると、社会は少しずつ変わっていく」

なるほど模範を示そうと言うドライバーやライダーを日々多く目にすることは、子どもたちにも良いお手本となり、交通社会に慣れてしまった大人にも視覚的効果により、安全走行への再啓発・再認識効果は高いと、私も推察します。

度重なる悲しい事故をS T O Pさせるために、インフラや交通ルールの改正に委ねるばかりではなく、「素敵な乗り物で、悲しい事故を本当に減らしたいと願う人々が立ちあがり、思いやりある運転行動を広めている活動例」なのだなと感じいました。

自転車でも、「A I C H Iセーフティーサイクリスト」等の啓発走行会などを実施してみたいと思いました。

さて、2つめの大変参考になった出来事。

研修会場隣の代々木公園で、またもや偶然に遭遇した児童期の交通教育の例です。

予定した代々木の会場に少し早めに到着し、長丁場の高速の緊張をほぐそうと、顧問と2人で、すぐ隣の代々木公園を散策しようということになりました。



今年の夏は「デング熱」の蚊騒動で大変であったであろう公園内を、男2人がそぞろ歩きをしていると・・・、前方のサイクリングコースをカルガモ一家のように先生に引率された、幼稚園生か小1と思しき子どもたちが自転車に乗って

やってきます。 一列走行、前後の間隔を上手にとって 一班10名位で走行してくる様子に出会いました。「サイクリング遠足かな？ すてきななあ〜」「それにしても間隔走行が上手だなあ」と感心していると、次から次へとまだまだたくさんの班がやってきます。

どの子ども皆、とても上手に間隔をとって、楽しそうに走行しています。「幼稚園や小学校でサイクリング遠足ができるなんて・・・」と思い、この教育活動の事情を知りたいという思いで、サイクリングターミナルの方へと歩いて行きました。たくさん子どもたちが、先生の指示で出発・到着を繰り返しています。先生たちが注意点を話されたり、「もう一周、行きたい人？」と聞いたりしています。

そして、元気よく一列で走り去っていきます。この光景を見て、感動を覚え、心がわくわくしました。代々木公園のサイクリングコースは、樹林帯の中を爽やかに一周2kmほどで、判り易く歩行者と自転車走路が分離されています。

ターミナル横の周回可能なショートコースでは、補助輪外しを教えている先生の姿もあります。私たち男性2人が、じ〜っと、子どもたちの様子を興味深く観察しているのも、客観的にみると、昨今の世情から、先生や子どもたちを気味悪がらせては申し訳ないな



と感じ、同時に大変興味深かったので、後ろの建物に交通安全教育の研修会にきた旨を話し、管理者の方からお話を伺いました。

その方の話では、文京区にある幼稚園の子どもたちが、定期的に自転車の乗車訓練をしに、この代々木公園に電車に乗って訪れるのだそうです。電車に乗ってくるのも、さまざまな交通インフラを知るための交通教育の一環とのことでした。保護者からも、そういった交通教育の要望が高いようだとのことでした。

3. 11の東日本大震災では、ご存知の通り、東京もとてもたくさんの帰宅困難者が出ました。その際に、自転車が有効活用され、その有用性が見直されました。

「今後の日本社会で必要とされるであろう自転車の乗車訓練を、児童期から積極的に実施する必要がある」と園長先生が震災で身をもって体感され実施されるようになったとのことでした。

そして、私たちが遭遇した今日の様子があるのだと教えて頂きました。

児童期に、交通社会で大切な前後左右の空間把握能力を、自転車という乗り物に乗って、サイクリングコースという安全な空間で身につけることができる子どもたち。

その姿に感動を覚え、「その後の社会で必要なことを、積極的に体験させることの大切さ」を、目の当たりにしました。

交通社会の改善のために、インフラ改善や交通ルール等の改正を望み、ただ待つばかりでなく、実際に利用する人々の願いや行動・教育活動により、自転車を含めた交通社会の環境改善へと近づく手段は様々にある、ということを知った東京研修となりました。以下に、東京スマートライダー等のHPをご覧ください。

2014 2/11 OSCN代表 片山 昇

東京スマートライダー HP ⇒ <http://smartrider.jp/>

東京スマートドライバーHP ⇒ <http://www.smartdriver.jp/>

東京代々木公園 ⇒ <http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index039.html>